２０２６年秋の読書感想文・課題作文優秀作品

【中学部・課題作文】

鶴川校 M.A.さん（鶴川第二中）

私にとっての「１円玉」は、お財布の中で溜まってしまうあまり使うことがないものである。

さて「円」についてだが、資料Ⅰによると 10 年前に比べて価値が 30%下落していることが分かる。「円安ドル高」が輸入品に頼る私たち日本人の生活において、身近な食品や日用品の値段を高くしていると感じる。課題文からは、アメリカ人にとっての「１¢硬貨」は、私たちにとっての「１円玉」と同様のものであることが読み取れるが、１¢でも安く買いたいと思う心情もまた、１円でも安く買いたい私たちの心情と同じであると思った。資料Ⅱの画像を見ても、アメリカも日本も同じように安いものに目が行きやすい値札を掲げているという印象を抱いた。

ところで、日本でもアメリカと同様にキャッシュレスの利用者が増えている。資料Ⅲによれば、10 年前と比べてキャッシュレス決済率は、22.5%から 58%と約 2.6 倍増えていることが分かる。私はもっとキャッシュレスを使った方がいいと考えている。なぜなら、会計の時に時間がかからずに出来ることや、キャッシュレスは使うアプリにもよるが、一回使うことによってポイントが増えていき、溜まれば買い物がお得に出来るということがあるからだ。

私は今後、キャッシュレス化が進み「１円玉」はアメリカの１¢硬貨のようになくなってしまうと考える。その一方で「一円を笑うものは一円に泣く」という諺のように、一つ一つの価値が小さくても積み重なれば大きな価値になるということは変わらないと思う。私にとってこだわりたい小さなものは、一つのものを長く使うことだ。沢山使えば使うほど他のものには変えることのできないものになるように考えて大切にしている。「１円玉」は、お財布の中で溜まってしまう存在だが、使う機会の少ない「１円玉」でも、今はまだ大切に使っていきたいと考えている。

【講師の部・課題作文】

十日市場校　S.M.さん

財布の奥底に埋まった１円玉に有難みを感じたことは、私にはない。スマホひとつで会計が完結する現代、私にとっての１円玉は、正直財布を無駄に分厚くし、閉まりを悪くするだけの存在である。コストや利便性を考えると一円玉はとうに役割を終えつつある通貨だというのが私の第一印象だ。

そう感じる背景には 1 円玉の置かれた状況もひとつの要因として存在する。資料Ⅰによれば、10 年前と比べて円の価値は約 30%下落し 1 ドル 159 円となっている。つまり米国の１セントは約 1.6 円となり、日本の１円よりも価値が高いとわかる。しかし、米国はその１セントですらコストを理由に製造を停止した。為替そのものが直接 1 円玉の必要性を左右するわけではないが、1 セントより価値が低く、製造に約 3 円かかる日本の１円玉が未だに維持されている現状はいささか歪である。

こうしたコスト面の問題に加え、私たちの決済文化の方が既に大きく変化している。資料Ⅲによれば、国内のキャッシュレス決済比率は 10 年で 22.5%から 58.0%に、約 2.6 倍にまで急増した。課題文ではトラブル時における現金の強みが主張されているが、それも端数が出ない価格設定や税制にすれば１円玉いらずで解決する話である。現在でも「銭」にあたる小数点以下の部分を切り捨てて処理しているにも関わらず、1 円は例外だとする主張は、単なる変化への抵抗感に過ぎないのではないだろうか。

課題文にある「1 円を笑う者は 1 円に泣く」ということわざは、小さなものを大切にする精神を説いたものであり、物理的に１円玉を作り続けることではない。私のこだわりは、伝統や形式に流されず、今本当に必要なことを見定めることだ。当たり前とされてきた前提を敢えて批判的に捉え直し、無駄な固執を捨てる柔軟な視点と共に変わりゆく時代に向き合っていきたい。

【小学部・読書感想文】※今回該当者無し